



ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会

News

(141)

2020年12月1日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
http://www.luther.ac.jp/
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL: 0422-31-4611
FAX: 0422-33-6405

これを書くのは十二月より少し前ですが、新型コロナウイルス感染状況が急に好転しない限り、今年のクリスマスは例年とは変わった状況の中に、いくつかの対策や工夫が加わって迎えることでしょうか。私が勤めている学校、教会もそうです。

人々が集まることに恐れがあるこの現実、クリスマスにふさわしくないでしょうか。確かに例年の楽しみのイベントなどは難しいかも知れません。

しかし本来のクリスマス、御子の誕生を祝い、礼拝することに、私はあえて困難はないと思いたいです。なぜなら、もともと神の御子は、この世に來られた最初の瞬間から、決して人々の用意が整い、楽しみ祝う場所から

ルカによる福音書一章二六〜三八節 神にできないことは何一つない



日本福音ルーテル室園教会・甘木教会牧師
九州ルーテル学院大学チャプレン
崔 大凡

に、困っている人のために少しだけの空間を譲れる余裕もなかった人々の間にお生まれになりました。それにならぬ男の人を知らず子を産む用意が出来ていなかった若いおとめの胎内に宿りました。

神が造られた世界に、神が来られない場所はありません。神のみ旨を伝える天使の言葉のごとく「神にできないことは何一つない」のです。人々の思い、用意があつて神が現れるのではありません。ただ世人、罪人のために臨在し、救いを示そうとした神の御意志がすべてです。そしてその通りに実現したのが本来のクリスマスなのです。

オンライン 一日神学校に参加して

後援会推進委員 古財 武久

秋になると「一日神学校（以下一神）」が開かれ、懐かしい人に会える、懐かしい人達との礼拝が守られる、キリスト教に関連する勉強ができる等々の楽しい思いが巡ります。しかし、今年はオンラインでの開催です。少し寂しい気持ちになりました。でもよく考えてみると、一神に参加できる人は限られていることに気が付きました。オンラインなら全国各地で同じ時間に参加でき、共有の恵みを受けられます。素晴らしい企画です。

「いのちを守る」というテーマで十一月三日に一神は開かれ、立山神学校長からの「人はパンだけで生きるのではなく、人は神様からのみ言葉によって

れたのではないからです。むしろ人々の思いを越えたところに神の御子は来られ、苦しむ人々と共におられたのが聖書のメッセージです。

御子は人として来られました。当時の帝国と王の圧政下に苦しむ人々の間

に、困っている人のために少しだけの空間を譲れる余裕もなかった人々の間にお生まれになりました。それにならぬ男の人を知らず子を産む用意が出来ていなかった若いおとめの胎内に宿りました。

神が造られた世界に、神が来られない場所はありません。神のみ旨を伝える天使の言葉のごとく「神にできないことは何一つない」のです。

人々の思い、用意があつて神が現れるのではありません。ただ世人、罪人のために臨在し、救いを示そうとした神の御意志がすべてです。そしてその通りに実現したのが本来のクリスマスなのです。

それゆえに私たちはたとえどんな状況の中でも神の臨在を待ち望むことができます。御子の臨在を、身をもって受け入れた一人の女性のように、「お言葉どおり」「み心のままに」神を迎えることができるのです。どんな時、どんな場所でも。

生きる」という説教が始まりました。

次に江口先生による講義です。お話は、①人類と疫病 ②ルターと疫病 ③キリスト教と疫病、という順番で、分かりやすく進められました。私たちは、今までは違った生活を余儀なくされています。そのような中で私たちは、神様からの深い愛を信頼する信仰により、隣人への愛をもって生きることを教えられました。

その後、福島先生と田副先生から「福祉と心理の専門教育について」のお話があり、続いて神学校一、二年生四人の自己紹介により、神学生を知り得る良い機会が与えられました。

午後五時近くに終了しましたが、新しい形の恵まれた一神でした。来年はルーテル学院での一神と並行し、オンライン一神も開かれることを願っております。

「いのちを守る」というテーマで十一月三日に一神は開かれ、立山神学校長からの「人はパンだけで生きるのではなく、人は神様からのみ言葉によって

クリスマスの喜びを 大学・神学校へ

今年度募金目標額

2,500万円

税制上の優遇措置が
受けられます

年度始めの情報を
お届けできるよう

2021年度より

6月、9月、12月、
翌年3月に発行時期が
変わります。次号は
6月1日発行です。

未来への希望を「遺贈寄付」の形に

ルーテル学院大学 学長 石居 基夫



遺贈による寄付制度をご存知でしょうか。これは、遺言によってご寄付をいただく制度です。遺贈そのものは、誰に対しても遺言によって遺産の全て、またはその一部を指定して譲渡するものですが、その中で特に病院、教育機関、あるいは地方自治体やNPO法人などへ寄付するものを「遺贈寄付」と言います。

本学では、数年前に一人の信徒の方が、教会を通して導かれたこと、特に音楽教育への賜物を受け取られたことを覚えて、チャペルのパイプオルガン設置のために多額の遺贈寄付をくださいました。それをきっかけに後援会が

呼びかけてくださって、多くの方々から賛同の献金を寄せてくださったのです。それが実り、今のパイプオルガンの設置となりました。入学式や卒業式ばかりではなく、毎日の礼拝、そして大学の諸々の行事に人々の心に神のくださった音楽の賜物が届けられています。

また、今年は突然の新型コロナウイルスの感染リスクに対応して、大学は前期全の授業をネットを用いたりリモートとし、後期も学校での対面式との混合でリモート授業を行うこととなりました。それに伴い、少しでもオンラインで学生一人ひとりに授業を届けられるように、様々な設備を急ぎ整える必要がありました。対応に追われる年度の

初め、一人の信徒の方から遺贈として多額のご寄付をいただくこととなり、大学としては、大いに助けられました。学生が本学に学ぶことをお支えいただくことは、いつでも将来、私たちの社会に、教会に、かけがえのない人材を育てていくための大きな力となります。人生の締めくくりをお考えになられるとき、将来への希望が一つの形として表されることにはきっとかけがえのない意味があることでしょう。

後援

支えることの大切さ

北見ルーテル教会員 中川 了之

北見教会は、日本最北の地にあるルーテル教会です。二年前には新会堂が与えられ、今も美しく光り輝いています。全国の皆様のお祈りと力強いお支えに、改めて感謝しております。

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校後援会は、この学校に学ぶ者たちを支える大きな働きを続けております。「後援」の二文字をこうして書いてみると、学生たちの学び、生活を「後ろ」から「応援」している姿が目に見えます。私たちの小さな教会も、多くの人に支えられていることを同様感じている次第です。

北見教会からは、私の妻が昨年神学校を卒業し、新潟の教会で奉仕しています。なかなか、「身近」な話題として、「後援会」はそれまで出なかつたのですが、このことを機に、会員の中心にも少しずつ意識の変化は出てきたように思います。神様はこのようにして、いつも私たちに他の人たちを「支える」ことの大切さを伝えてくださっ

ルーテルで学んだ 4年間に感謝

社会福祉学科卒 本多 尚美

季節は秋から冬に変わり、クリスマスの足音が聞こえてくる頃となりました。私は三鷹教会の教会員でもありますが、日曜日毎に母校の礼拝堂で礼拝を守っております。この時期になりますと、チャペルには大きいクリスマスツリーが立ち、イルミネーションが飾られ、学内でも静かにイエス・キリストの降誕を待ち望んでいます。

卒業してからも、常に時代の流れに沿って整えられ、変化していく母校を常々見続けており、このために全国の多くの教会の方々のお支えが何時も変わらずにあることを実感しております。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために学内も様々な取り組みがされております。その中で真摯に学び続けている学生達が生活していることを覚えながら、皆様方の大学への変わらぬご支援をお願い致したく、ペンを取りました。これからの社会を支えていく有為の学生達の心地よい学びのため、卒業生の皆様が変わらぬご支

大学を卒業して長い歳月が経ちますが、ルーテル神学大学（当時）で学んだ四年間は、今の私を支えていると言っても決して過言ではありません。先生方と学生との距離が近く、親身になって指導してくださった先生方の熱意を社会人になってからひしひしと感じております。また、日本各地の教会の方々からのお支えがあつて、そのお陰でキャンパスが良く整えられ、大学生活を快適に送ることができたことを今でも感謝しております。

卒業してからも、常に時代の流れに沿って整えられ、変化していく母校を常々見続けており、このために全国の多くの教会の方々のお支えが何時も変わらずにあることを実感しております。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために学内も様々な取り組みがされております。その中で真摯に学び続けている学生達が生活していることを覚えながら、皆様方の大学への変わらぬご支援をお願い致したく、ペンを取りました。これからの社会を支えていく有為の学生達の心地よい学びのため、卒業生の皆様が変わらぬご支